

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, February 2019

課長：佐藤 裕久 H. Sato

幹事：下元 繁男 S. Shimomoto

○ 2月の状況 (佐藤)

☆ C/2018 Y1 (Iwamoto) (写真 a)

彗星課メーリングリスト (oaa-comet ML、以下同じ) などに次のように報告があった。

2月8日 00:08、筆者から「1月31.80日 UT、池村俊彦さん(新城観測所: Q11)が0.35-m f/5反射で撮った CCD 画像から、私は全光度を7.7等と測定しました。2月1.74日 UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDで全光度を8.3等と観測しました。1月29.73日 UT、香川県観音寺市の藤川繁久さん(X89)はf120mm f/3.5露出1分で10.2等と観測しました。『直線距離にして1.4キロ海拔900mの山頂に人工スキー場があり、営業は22時まで、その後夜が明けるまで降雪機がフル回転で、強力な照明が我が山小屋を満月のように照射し閉口しています。これが3月の中ごろまで毎夜続くのです。いつも標記彗星は時々短時間ですが照明が南側に向いた時に撮るのです。FTSでは球状星団のように感じました』とのコメントをいただきました」とのコメントと画像を紹介し改良軌道要素を報告した。

同日18:14、関勉 OAA 顧問から「ちょっとしたエピソードです。私も随分昔に香川県の藤川さんところへ行ったことがあります。多度津町の仲順三郎さんと一緒でした。その頃は凡そ光害はなく、観測所周辺はミカン畑になっていました。藤川さんは仲さんの研磨した16cm鏡を使っていました。その後、ニコンの12cm双眼

を入手され「デニング・藤川彗星」の回帰を発見しました。眼視では限界の暗さでした。仲さんは中村要さんの事を良く知っていました。また地元には川人武正という大家とも知り合いました。30年ほど前に多度津町の沖の瀬戸内海に隕石?が落ちたときの目撃者の一人で、科学博物館の村山氏らが潜水艇に乗って大規模に海底を探索しましたが見つからず。仲氏は火球が途中で消えたことを証明していました。つまり海には届かなかったのです。探索の後で私に言ったことで、村山氏はご存じなかったようです」とのコメントがあった。

16日00:37、筆者から「2月11.67日、13.70日 UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10反射 + レデューサー(f/5)でそれぞれ全光度を6.8等、7.0等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

20日11:43、筆者から「2月14.59日 UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDで全光度を7.1等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

24日16:08、吉田誠一氏(神奈川県横浜市)から「茨城県常陸大宮市・花立山自然公園での彗星観測です。月の出前ですが、透明度は良くありませんでした。C/2018 Y1: 明るく良く見えます」とのコメントと他の彗星と併せ光度観測報告があった。

3月1日00:25、筆者から「2月5.59日 UT、高橋俊幸さん(栗原:D95)は0.25-m f/4.2反射

+CCD で全光度を 8.1 等と観測しました。20.44 日 UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10 反射 + レデューサー(f/5)で核光度を 13.5 等と観測しました。24.57 日 UT、私(Q23)は、0.25-m f/4 反射+CCD で全光度を 8.8 等と測定しました」とのコメントと画像を紹介し改良軌道要素を報告した。高橋さんは 2 月 5 日の観測中に 10 年ほど使用しているノート PC が勝手に(繰り返し)再起動する不具合が生じ、観測に支障が出たため OS を再インストールをしたそうで、その後は無事観測ができるようになったとのことであった。

2 月中、国内で位置観測したのは他に、安部裕史氏(島根県松江市八束:367)、堀寿夫氏(徳島県阿南市:D74)、野原秀憲氏(栃木県宇都宮市:Q21)であった。

☆ 46P/Wirtanen (写真 b)

8 日 12:06、筆者から「1 月 14.42 日 UT、高橋俊幸さん(栗原:D95)は 0.25-m f/4.2 反射+CCD で全光度を 6.0 等と観測しました。19.73 日 UT、門田健一さん(上尾:349)は 0.25-m f/5.0 反射+CCD で全光度を 8.3 等と観測しました。31.68 日 UT、池村俊彦さん(新城観測所:Q11)が 0.35-m f/5 反射で撮った CCD 画像から、私は全光度を 8.5 等と測定しました。2 月 1.43 日、4.48 日 UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10 反射 + レデューサー(f/5)でそれぞれ全光度を 10.5 等、10.9 等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

17 日 22:13、筆者から「2 月 11.69 日 UT、芸西チーム(372)は、0.70-m f/10 反射 + レデューサー(f/5)で全光度を 12.5 等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

20 日 11:07、筆者から「2 月 14.70 日 UT、門

田健一さん(上尾:349)は 0.25-m f/5.0 反射+CCD で全光度を 9.1 等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

○ 2 月に発見が確認された彗星

☆ P/2019 B2 (Groeller) H. Groeller の通報によると、1 月 26.3 日 UT、Catalina スカイサーベイの 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た CCD 露出から彗星を発見した。「確りしたコマがぼやっとしたエリアに囲まれている」そして、4 枚 30 秒露出で p. a. 290-320° に明らかな約 10" の尾があると注記している。1 月 26.4 日 UT、B. M. Africano が Mt Lemmon にある Steward 天文台の 1.0-m 反射望遠鏡で得た 4 枚 45 秒フォローアップ CCD 露出から、確りしたコマがぼやっとした円盤状に囲まれて見えた。小惑星センターの PCCP webpage に公表後、R. Weryk (1 月 25.53-25.56 日 UT、Haleakala にある Pan-STARRS1 1.8-m Ritchey-Chretien 望遠鏡で得た発見前の観測を報告した)や佐藤英貴氏(東京都文京区、iTelescope 天文台、0.43-m f/6.8 アストログラフ、Mayhill 近郊、ニューメキシコ州、遠隔操作)によると、1 月 27.4 日 UT、60 秒露出 16 枚のスタックで、強く集光した 20" のコマで、20.3 等の恒星のような核状集光している。p. a. 270-330° に 25" の扇型の尾がある。10".5 の円形範囲で測定した全光度は 18.4 等であった(核状集光の光度は 5".7 の円形範囲で測定された)(CBET 4609、2019 February 4)。

1 月 29.71 日 UT、池村俊彦さん(新城観測所:Q11)が 0.35-m f/5 反射で撮った CCD 画像から、筆者は全光度を 18.8 等と測定し、60 秒露出 12 枚のスタックで、直径約 11" のコマと p. a. 約 301° に約 20" の尾が見えるとコメントをつけ

て報告した。

☆ C/2019 A9 (PANSTARRS) 1月14.3日 UT、Haleakalaにある1.8-m Pan-STARRS1望遠鏡で得た画像から小惑星状天体を発見した。12月に発見前のPan-STARRS1の観測があった。2月3.2日、J. KleynaとK. J. Meechは、Mauna Keaにある3.6-m Canada-France-Hawaii望遠鏡で得たCCD画像は彗星状に見える。東側に少し伸びているように見えた。光度は20.1-20.2等と測定された。佐藤英貴氏(iTelescope天文台、0.43-m f/6.8アストログラフ、Mayhill近郊、ニューメキシコ州、遠隔操作)によると、1月25.1日 UT、60秒露出16枚のスタックで、外観は恒星状に見えた。5".7の円形範囲で測定した光度は20.0等であった(CBET 4610、2019 February 7)。

☆ C/2019 B3 (PANSTARRS) R. Weryk、R. WainscoatとY. Ramanjoolooによると、1月24.6日 UT、Haleakala(ハワイ)にあるPan-STARRS1望遠鏡で得た4枚のi-バンドCCD露出から彗星を発見した。この天体は、東に向かって非対称に見え、FWHM(半値全幅)は近傍の恒星が約1".1に対し約1".8であった。Werykは、2月4.66日 UT、Wainscoat、L. WellsとS. Prunetが、Mauna Keaにある3.6-m Canada-France-Hawaii望遠鏡で得た3枚60秒gri-バンドフォローアップCCD露出から、彗星であると確認したと追記した。それは背景星に接近していたが、FWHMは近傍の恒星が1".3に対し約

2"であった。小惑星センターのPCCP webpageに公表後、佐藤英貴氏(iTelescope天文台、0.51-m f/6.8アストログラフ、Siding Spring、ニューサウスウェールズ州、オーストラリア、遠隔操作)によると、1月28.6日、60秒露出12枚のスタックで、強く集光した10"の丸いコマで、6".5の円形範囲で測定した全光度は18.8等であった(CBET 4611、2019 February 27)。

その他2月に発見が確認された彗星は次のとおり。

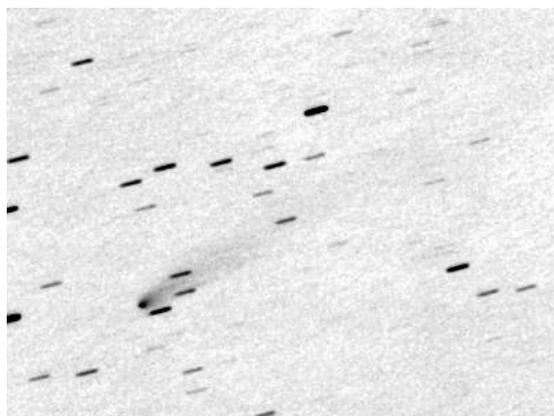
- P/2018 V5 (Trujillo-Sheppard) 発見光度 22.2等
- P/2019 A8 (PANSTARRS) 発見光度 21.5等



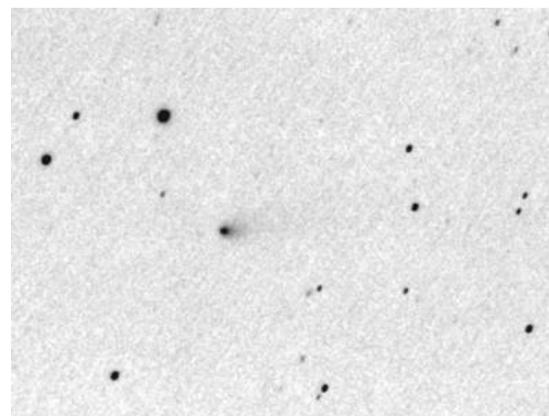
(写真 a) C/2018 Y1 (Iwamoto)
2019, 02, 14 22h57.3m-23h17.3m (JST)
exp. 60s×20 FCT65 + ASI178
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) 46P/Wirtanen
2019, 02, 14 23h20.3m-36.3m (JST)
exp. 60s×16 FCT65 + ASI178
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 c) 60P/Tsuchinshan
2019, 02, 26 22h37.0m-24h17.0m (JST)
exp. 60s×91 TOA130 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) 123P/West-Hartley
2019, 02, 02 23h12.0m-46.0m (JST)
exp. 60s×31 TOA130 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏

○ 主な光度等観測報告

	2019	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
C/2016 N6 (PANSTARRS)	Feb.	4.57	13.3	0.2'	-	1.0'	300°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②③
C/2018 A3 (ATLAS)	Feb.	1.62	16.0	0.1'	-	2.0'	80°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		4.47	15.5	0.1	-	2.0	80	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
C/2018 L2 (ATLAS)	Feb.	1.39	13.3	0.3'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		1.85	12.6	1.2	-	-	-	-	-	EOS6D**	張替憲	④⑤⑥
		2.85	12.2	1.5	-	-	-	-	-	EOS6D**	張替憲	④⑤⑥
C/2018 N2 (ASASSN)	Feb.	1.46	13.6	0.3'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		2.44	12.7	0.3	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
C/2018 Y1 (Iwamoto) (写真 a)	Feb.	1.79	11.4	>3.0'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		2.79	10.9	>3.0	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		11.82	6.5	20	-	-	-	-	-	25×15-cmB	中村正光	⑦⑧
		13.63	6.8	14	3	-	-	2/5	2/5	7×5-cmB	佐藤裕久	⑨⑩
		13.64	6.5	19	5	-	-	3/5	3/5	D300s***	佐藤裕久	⑩⑪
		13.67	8.0	5	6	-	-	4/5	3/5	21×15-cmR	関 勉	⑫
		23.51	8.3	11	4	-	-	-	-	36×40-cmL	吉田誠一	⑬①
		23.51	7.7	15	3/	-	-	-	-	10×7-cmR	吉田誠一	⑬①
21P/Giacobini-Zinner	Feb.	4.56	16.6	0.2'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
29P/Schwassmann-Wachmann	Feb.	1.43	15.3	0.3'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
38P/Stephan-Oterma	Feb.	1.64	12.9	>0.4'	-	>5.0'	240°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		4.61	13.0	>0.4	-	>5.0	240	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		23.50	12.6	1.8	3	-	-	-	-	144×40-cmL	吉田誠一	⑬②
46P/Wirtanen (写真 b)	Feb.	1.65	12.3	>1.5'	-	>6.0'	210°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		2.78	9.7	5.1	-	-	-	-	-	EOS6D**	張替憲	④⑤⑬
		4.64	12.3	>1.5	-	>6.0	210	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		13.66	9.7	4.1	1/	-	-	3/5	3/5	D300s***	佐藤裕久	⑩⑮
		23.49	10.2	4.3	1	-	-	-	-	36×40-cmL	吉田誠一	⑬③
60P/Tsuchinshan (写真 c)	Feb.	1.75	13.9	0.2'	-	>10.0'	310°	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		2.78	13.9	0.2	-	>10.0	310	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
64P/Swift-Gehrels	Feb.	1.55	13.7	1.0'	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		2.55	13.2	1.0	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		4.49	14.0	1.0	-	-	-	3/5	3/5	45-cmC*	嶋邦博	①②
		23.48	12.4	2.3	1	-	-	-	-	75×40-cmL	吉田誠一	⑬④

78P/Gehrels

Feb. 1.44 13.7 2.0' - 0.8' 60° 3/5 3/5 45-cmC* 嶋邦博 ①②

123P/West-Hartley (写真d)

Feb. 2.75 13.7 0.5' - >0.6' 275° 3/5 3/5 45-cmC* 嶋邦博 ①②

* 45-cm F12 (レデューサー使用 F4.6) カセグレン反射+FLI ML8300。

** 15-cm F4 (レデューサー使用 F2.5) 反射+デジタル一眼 Canon EOS 6D。

*** デジタル一眼 D300s + 85mm f/1.8。

① 観測地:長野県富士見町 五藤光学八ヶ岳観測所。② 60秒露出を Astrometrica UCAC-4 で測定。
③ fan tail ④ 15 cm F2.5 反射+Canon EOS6D の G 画像を GUIDE9.0 を使用して Makali i Ver1.4a にて
測光。観測地は千葉県九十九里木戸浜海岸。⑤ 50秒露出(25秒×2) ⑥ 約12等と暗くなり、コマ
は集光のない円盤状。⑦ 拡散状、尾はつきりせず。⑧ 観測地:浜松市引佐区川名 ⑨ 時折薄曇
りがかかる。⑩ 観測場所:自宅庭 ⑪ 露出3秒×20 ⑫ 核は眼視では見えず、朦朧とした霧のよ
うなイメージ。⑬ 観測地:茨城県常陸大宮市・花立山自然公園 ⑭ コマは青く約5' と小さくなった
が恒星状の集光がある。⑮ 露出10秒×6

① 明るく良く見える。② 暗くなったが、まだ良く見えている。③ かなり暗く小さくなった。
④ かなり淡く暗くなった。

※ 全ての光度等観測は、次を参照。

http://www.comet-web.net/~oaa-comet-ml/comet_mag_report.htm

※ 光度等の観測報告は、佐藤裕久宛て e-mail : hirohisa-sato@hi-ho.ne.jp に送付ください。